

2021 年度第 5 回支部集会【関西支部】

2022 年 3 月 19 日(土)13:00-16:40(受付開始 12:30)

Zoomによるオンライン開催

主催:公益社団法人日本語教育学会

参加費:500 円 (マイページ事前参加登録にてお支払いください) 定員:100 名
 ※ご参加予定の方は、[学会ウェブサイトのマイページ](#) から 3 月 16 日(水)までに事前参加登録(支払含む)をお済ませください。事前参加登録について詳しくは [こちら](#) をご覧ください。
 ※事前参加登録をお済ませになるとマイページより予稿集をダウンロードできます。また、事前参加登録者には、開催 1 週間前よりメールにて当日の詳しい参加方法と、口頭発表動画、交流ひろばの資料を別途ご案内いたします。

◆支部集会日程◆

12:30	受付開始
13:00-13:05	開会のごあいさつ
13:05-14:15	口頭発表(3 件)
14:20-14:40	交流ひろば I (2 件) ※ブレイクアウトルーム間を自由に移動可能です
14:45-15:05	交流ひろば II (3 件) ※ブレイクアウトルーム間を自由に移動可能です
15:15-16:35	パネルディスカッション 「地域日本語教育ネットワーク —京都における取り組みと課題—」
16:35-16:40	閉会のごあいさつ

【13:05-14:15】口頭発表(3 件)

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム p.4-5、詳細はマイページよりダウンロードできる予稿集原稿をご覧ください。オンライン開催では 1 週間前からご案内する発表動画と予稿集を各自で事前にご覧いただき、当日の Zoom では発表者と質疑応答をいたします。なお、口頭発表者への事前質問についても開催 1 週間前から前日 3 月 18 日(金)正午まで受け付けます。

- 13:05-13:25 ① 「中学生の初級学習者の非情の受身理解を目指す授業デザイン
—地理の教科書読解の第一歩として—」
竹市 久美(板橋第二中学校)

13:30-13:50 ② 「日本語学習者のための自律的動機づけ尺度作成の試み」
山本 晃彦(鈴鹿大学)・末吉 朋美(関西大学)

13:55-14:15 ③ 「東大阪市の企業における外国人従業員の受け入れ状況」
大河内 瞳・樋口 尊子(大阪樟蔭女子大学)



【14:20-14:40】 交流ひろば I (2 件)

- ① 【ブレイクアウトルーム 1】「質問分類表に基づいて質問しあってみよう—OPI 形式のコーパスの分析に基づいて—」

堀 恵子(東洋大学)・安高 紀子(明治大学)・大隅 紀子(東京大学)・ケッチャム 千香子(上智大学)・長松谷 有紀(桜美林大学)・長谷川 由香(法政大学)

質問力を高めることを目的とし、インタビュー形式で口頭能力を測定する ACTFL-OPI の質問を機能別に分類し、言語形式の例も載せた分類表を作成しました。教育への応用を考えるために、人間関係をよくするための会話を想定して質問しあい、分類表を参照しない場合と参照する場合による違いについて考え、自由に意見交換をしたいと思います。

- ② 【ブレイクアウトルーム 2】「筑波大学 日本語・日本事情遠隔教育拠点の紹介」

伊藤 秀明・小野 正樹・波多野 博顕(筑波大学)

筑波大学 日本語・日本事情遠隔教育拠点では、日本語教育コンテンツ、評価システムを公開しています。コンテンツの使い方の紹介とともに、現場での活用法や今後の協力などについて一緒に考えていきたいと考えています。興味のある方はぜひお越しください。

【14:45-15:05】 交流ひろば II (3件)

- ③ 【ブレイクアウトルーム1】「非流暢で自然な会話の指導とは？—初級日本語テキストに見られる「ちょっと」を手掛かりに—」

西村 史子(ワカト大学)・鹿嶋 恵(熊本大学)

一般に、言語学習ではよどみなく流暢に話せるようになることを目指しますが、例えば断る際の「土曜日はちょっと…」のように自然に“非流暢に”話せることも重要です。今回のひろばでは、初級日本語テキストで扱われる「ちょっと」を手掛かりに非流暢性を持つ自然な会話の指導について皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

- ④ 【ブレイクアウトルーム2】「介護福祉士を目指す留学生に必要なサポートとは？—当校日本語科の取り組みについて—」

蔭山 峰子・石丸 春奈(阪奈中央リハビリテーション専門学校)

将来主に介護福祉士を志す留学生の日本語習得にはどのようなアプローチが必要なのか、また医療・介護現場と日本語教育が協働し、留学生及び外国人入職者を受け入れる環境を作り上げるにはどうすればよいのか、同様の立場におられる方々と情報共有や意見交換ができればと考えています。興味のある方はぜひお越しください。

- ⑤ 【ブレイクアウトルーム3】「年少者向け初期日本語学習用シナリオ動画・語彙学習動画の開発」

岡崎 渉(兵庫教育大学)・清遠 和弘(東京書籍)

年少者向けの初期日本語学習用デジタル教材として開発した、シナリオ動画と語彙学習動画を紹介します。対面指導・オンライン指導のいずれにも組み込めるものであり、子ども一人での学習にも利用可能なよう設計したものです。具体的にどのような活用方法があり得るか、どのような改良の余地があるか等について、意見交換をしたいと思います。



【15:15-16:35】 パネルディスカッション

「地域日本語教育ネットワーク —京都における取り組みと課題—」

開催趣旨

日本語教育のネットワークは日本語学習の機会はもちろん、次なる目的の実現に必要な情報や支援を地域日本語学習者に提供するという重要な役割を担っています。多種多様なニーズを有する地域日本語学習者を、それぞれが必要とする<機会>や<人>、<情報>などと出合わせるにはどのようなネットワークが必要でしょうか。本パネルディスカッションでは、日本語教育のネットワーク構築に尽力してこられた行政や諸団体の関係者をお招きし、京都における日本語教育のネットワーク構築に関する取り組み事例や課題についてご紹介いただきます。京都を例に、教室空白地を解消し、ネットワークの更なる拡大・日本語教育の輪を広げる方策を模索します。

パネリスト及び題目

八木 寿史氏(京都府国際課参事)

「京都府における日本語教育への取り組みについて」

近藤 徳明氏(京都府国際センター事業課長)

「府内における地域日本語教育体制の整備と京都府国際センターの取り組み」

濱屋伸子氏(京都市国際交流協会事業課長補佐)

「日本語学習に関するアンケート調査結果から見える企業と個人のニーズについて」

大久保 雅由氏(京都にほんご Rings(城陽市国際交流協会事務局長))

「ボランティア地域日本語教室から見た日本語教育を取り巻くネットワーク」

◆問合先◆公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会
〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会 2F
TEL:03-3262-4291 FAX:03-5216-7552 E-mail:shibu@nkg.or.jp



発表要旨 [2021 年度第 5 回支部集会【関西支部】(オンライン開催, 2022. 3. 19) 口頭発表①]

中学生の初級学習者の非情の受身理解を目指す授業デザイン
—地理の教科書読解の第一歩として—

竹市久美

日本語初級学習者の中学生にとって「教科の教科書」を読むことは、困難ではあるがが必要な学習活動である。また、教師にとっても自分の教科以外の教科書を使用して日本語を教えることは難しい。教科書読解の教材として、非過去で同じような項目の並ぶ地理に注目したが、地理には非情の受身が本文の3分の1以上使われていることが分かった。そこで、非情の受身の理解が教科書読解への足場架けとなるような授業のデザインを考案した。まず初級の読解を「文の主述が指摘できる」と定義し、簡単に認知の負荷も少ない「指差し確認」を使い、教科書の受身文の主述の指摘をさせた。また、指導案には「ガニエの9教授事象」を使用して、効果の継続までを含めた。

授業は初級の中学生 21 人に向けて個別に行い、非情の受身に関する文法や教科書の読解を含んだ 50 問のテストを事前・授業直後・授業 1 カ月後の 3 回行い、対応のある t 検定を使って指導の結果を確かめた。

(板橋第二中学校)

発表要旨 [2021 年度第 5 回支部集会【関西支部】(オンライン開催, 2022. 3. 19) 口頭発表②]

日本語学習者のための自律的動機づけ尺度作成の試み

山本晃彦・末吉朋美

近年、自律学習が注目されているが、肝心の学習者の自律度を測定する物差しについては議論がなされていない。これまでのところ日本人中学生からデータを収集し開発された尺度を用いた研究はあるものの、成人日本語学習者には適さない項目も見られた。そこで、新たに 412 名の国内外の日本語学習者からデータを収集し、自律的動機づけ尺度を再考した。その結果、①「勉強するということは大切なことだから」は日本人学生では「同一化的調整」だが、日本語学習者では「内的調整」に含まれ、「学びの重要性への気づき」が内発的な動機づけを導くこと、②「家族が応援してくれる」ことが「自律的な動機づけ」を高めること、③「恥からの回避」と「罰からの回避」が日本語学習者にとっては同質の「非自律的な動機づけ」であること、④「宿題」「テスト」「試験の合格」は「規則等の外からの要求」と同じ因子に含まれること、等が明らかになった。

(山本-鈴鹿大学, 末吉-関西大学))



発表要旨 [2021 年度第 5 回支部集会【関西支部】(オンライン開催, 2022. 3. 19) 口頭発表③]

東大阪市の企業での外国人従業員の受け入れ状況

大河内瞳・樋口尊子

本発表目的は、東大阪市の企業での外国人従業員の雇用状況や外国人従業員を対象とした日本語教室のニーズに関して明らかにすることである。現状やニーズの理解を通して、大学と企業が連携した日本語教育の在り方を検討したい。

本研究では、2021 年 5 月に東大阪にある企業 300 社にアンケートを郵送した。回答があったのは 129 社で、有効回答数は 128 であった。分析の結果、1) すでに十分な日本語能力を有する外国人従業員を雇用することで日本語学習の必要性を感じない企業がある一方で、8 割近くの企業が外国人従業員に対して日本語教育の必要性を感じていること、2) 企業が費用は負担するが、外国人従業員に主体的に学ぶことを望む企業が多いこと、3) 人材確保のために外国人従業員を雇用しているが、仕事の指示が聞き取れない外国人従業員が一定数おり、日本人従業員とのコミュニケーションができるようになることを目的とした教室が望まれていることがわかった。

(大阪樟蔭女子大学)

以上

